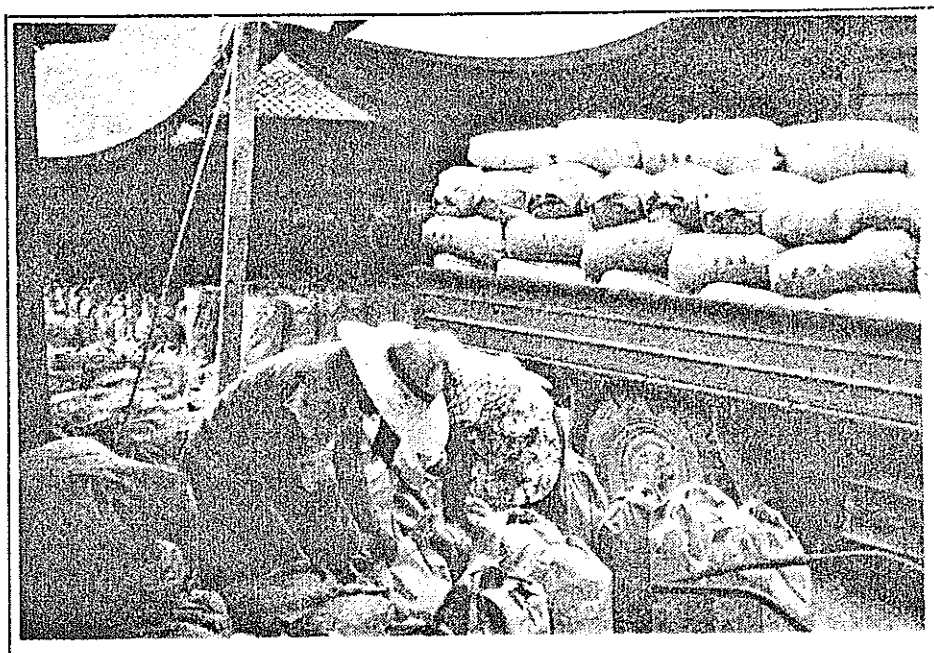
THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク

第47号
（毎月1回　全戸配布）
編集発行　南国市広報委員会
事務所　高知県南国市役所内（電話2111番）
印刷　用北印刷工業KK（電　2379番）

市の動態

人口　43,352人（男　20,917人　女　22,435人）
世帯数　11,068戸

本庁	5,872戸	22,590人
三和	2,210戸	9,353人
篠石	1,444戸	5,577人
岡豊	833戸	3,327人
十市	709戸	2,854人



米出廻る

長雨で減収が見込まれていた本年の早場米も、その後の天候の回復とともにイモチ病などの病害からややもち直り、無事収穫を終った。しかし、収量は少なく反当4～5俵程度のものがザラといわれる。　―日章農協で―

あすの社会を明かるく

母親と青年のいい分

家族会議でたのしい話し合のなかから学習を

自分たちの自主性を主張する青年たちと、身近に身守つてゆきたいと希う親たち、これはものの考へ方の違いであつて現在、お互の理解しようとする度合によりまがりなりにも平衡が保たれている環境とこのほど市の連合婦人会と、青年団の人たちが、〝公明選挙をどのように進めるか〟〝親のいい分、青年のいい分〟をテーマーにお互のいい分をそれぞれの立場から出しあつた。

▼政治は、である、といっても独善不早で人をみる目がとぼしい、まして政治は政党に左右されやすい、政治からボスを除くべきだ。

▼政党が国民のためのものでなく政党そのもののためにあるという感じが強い。

▼地元の行事を政治的に利用しようとする立候補者自体にも責任はあるが、候補者の資質についてはこな選挙民にも責任があろう。

▼選挙民といわれる人の暗黙は、候補者も選挙民も迷惑している。ローカルの強い出しは必要だ、自分の要求や、願いを誰れが受けとめてくれるかを知るべきで、それが勉強となり、みんなの学習となる。

▼婦人は学習の機会が多くなり成人の男子はその機会にとぼしい、婦人の政治意識は高まっている。

▼といって、投票の数字のみで、どれだけ自主性があったものか？その分析が大切ではないか、いまの青年は、ボスににぎられていないし、そんな気持ちはもっていない。青年は自主性をもっていても、婦人は主人の意見に従う人が多くはないだろうか。

▼家庭内での統一はむつかしくても、お互の意見を出しあう家族会議や、家庭学習は大切である。

▼議会をかこむ会や、市政を知る会などは、市政を知る上にも必要なことだ。

▼青年や、婦人から立候補者に対する公開質問状を出し、広報紙のせるなど意見の公開をしてみたい。

▼投票や、公明選挙の呼びかけなどは、婦人や青年が協力しあかるい選挙ができるよう推進してゆきたい。

＝まとめ＝

▽啓蒙活動の実施

△立候補者に公開質問状を出す

▽市政をわかるよう広報活動をしてもらう

▽家族会議に上る政治学習

▽市政討論会を開らこう

▽マスコミを利用して、公明選挙運動の様子を、広く一般に知ってもらう

「ある時期を別居で　一つ釜のごはんを」

青年　母親

▼二十才を過ぎても説教せられる、話しは解っていても素直にうけつけれない気持ちになる、いつまでも子供扱いされたくない。

▼親は不必要な干渉をさけ子供の願いを聞りおこす気構えであってほしい、ブレーキ役でなく子供と友達同志のような気になれないものか。

▼子供のいうことにそれはいけないといい後で反省している。聞りおこすようなことは却って反感を買う結果にならないものか。

▼自由にすれば、自由にし過ぎるといい、しめれば叱られ、むかしのことを言うとまた叱られる。

▼体験のはなしは有難いがむかしといまの違いを理解して、お互に話しを進めることが必要だ。

▼結論をすぐ出す上ような母親より、相談相手とし、しんみり考え研究してやる親でありたいもの……子供をいつまでも子供と考えず子供の人格、嫁の、婿の人格を互に尊重しなければならない。

▼別居してみて始めて親の愛情はわかるものだ。母親の愛情は子供とは決して離れないと思う、反撥はしてもいつかは母親の愛情のもとにかえるはずだ……

▼家庭的に別居できない場合があるようにに片親の農家にあってはなおかしい。

▼一つ釜のごはんを食べるところに愛情が湧く、嫁は義理をたててくれる嫁に愛情が湧くものだ、自分の体験からいっているいろの点から同居の方が上いと思う。

▼若い人たちは一時的の別居をのぞんでいるとき所りの別居に走り新しい愛情のわく例もある。

▼若い人もいずれは老後の日のくるのを考え、家庭の愛情から親子の関係を処理して頂きたい、長い親子の話もしてもらうという自然的なつながりでありたい。

親にも交際を

▼私たちの時代は結婚を前提とした恋愛であった。いまの人は恋愛と結婚を別々に考えているように思う。恋愛をする場合、互に責任を持ち合いみんなから祝福される相手を選んでほしい。

▼親に祝福されるのは、親が気に入った場合であってみんながそうなるとは限らない、親に干渉される結婚はしたくない。祝福されるのではなく、祝福してほしいし、祝福すべきではないか。

▼本人は自信があっても、親には一抹の不安をもつものであり親の気持ちは割り切れない。

▼自分が気に入って決めの相手と決めたら本人は相当の責任を感じ、その人なりの幸福をつかんでいると思う。

▼子供が恋愛をしていると きは、親は相談相手となる態度で、静かに見守ってやるべきである。また、自分だけの相手であるからと、自分のものとしないで、親を相手に近づけておくようにみんなの愛情が育つように、親も交際の範囲に入れてはしい。

聴さ話しはやめて!!

▼婦人と青年が、手かつなぎ合い社会的な仕事も学習もしてゆきたい。

▼婦人の特色として聴さ話がありすぎる、活発な意見が、誤った形として批判の言葉と受取られるおそれがある、女子青年に注意のかかった例もある。

▼学習の場として取り上げてやるべきで、井戸端会議の種となることのないようにしてやるべきだ。

▼誤って伝えられるのは日本語の欠点で、助詞の使い方で全然意味の違うこともある。言葉の大切さを勉強すべきだ。

＝まとめ＝

○母から、嫁は気立てのやさしい人を。

○妻を選ぶ場合、ある程度

本人にまかす。

○家庭の中で家族会議をする、夕食のもち方などたのしい話し合いの場となる上う工夫する。

○ある時期には遠くはなれてゆくが、子供の気持ちとなって相談相手になる母親になってほしい。

結婚と恋愛

母から……みんなで祝福される結婚を、

青年から……子供の立場になって祝福を。

別居について

母から……同居をのぞむ

青年から……一定期間の別居を……（親の資力生活様式により別居はむつかしいこともある）

孝行について

法律や義務からでなく、親子の愛情で解決したい。

工費九百万円で　中央隣保館建築

策業対和同事

野中地区

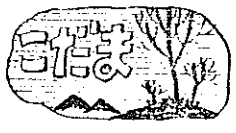
浜田先生（日章小）全国優勝

＝教職員剣道大会＝

第五回全国教職員剣道大会は、八月二十四日大阪市中央体育館で開らかれた。大会に出場した日章小学校の浜田寅八六段（42）は前浜田は、個人小学校の部で初の栄冠を握った。しかし、団体は惜しくも優勝の新潟に敗れて二位となった。

浜田六段は、第二回大会に第一位の戦績をもっているが、そのときの優勝戦の宿敵田五段を破ったのをきっかけに、得意の小手を主とし優勝戦に進み、熊本の強豪樋本七段と対戦、中段からの飛び込み面を決めて快勝したもの、なお国六段は小手が得意だけあって左の方も立派な剛面である。

浜田六段が宿願の全国優勝をなしとげた。これは実にたのしい朗報といえる。しかし、それまでの努力はなみなみならぬものがある。昼間は子供たちの尊師として教壇に立ち、少しの寸暇をさいての訓練の連続である。▼鉄は赤いうちに打てとか、いままでの訓練が実を結んだといえる。この道のみのことではないが、そこが終着駅ではない。まだまだ遠い彼方にまちうけている。いままで追う身であったものが、これから追われる身となる。これからの鍛練が大切だ、ますますみがきをかけ猛者たる地位を長くかちとってもらいたいものである。▼来月は選挙の月だ、公明選挙の名に恥じぬ努力をお互がつもう、だが、選挙戦は九割まで終った。



候補者となれば自身もいっている。しかし一割の公明選挙が、不公明選挙になるかの境い目になるのだろう。▼だまそうとする候補者もあろう、金で釣ろうとするものもあろう。五十万円いや百万円はいるだろうと目ばしるものもいるこれでは金持ちだけの選挙戦になりかねない。法定選挙費の二十七万円也では苦しいだろうが、できるだけの努力をしてもらいたい。▼ましてどうしてだまされるか金をばらまこうかと考える前に、候補者自体が、市政に対する力りょうを正々堂々と発揮するよう努力してほしい。▼こちらもだまされないだけの信念と勉強をつみ、公明選挙の推進に努力しよう。

山田セキは現状維持 八セキ合同ならず

物部川合同セキ問題

物部川にある八つの古い井セキを一つにして、年間米一千六百五十トンを増産する「物部川合同セキ建設計画」は、十余年間もめ続けた結果、このほど山田セキと父養寺セキは参加せず、下流の六セキだけで別の合同セキを建設することに決まった。

しかし、問題は全部解決したとはいえず今後に残されたものがかなりあるといえそうだ。（写真は、田村セキ）

関係の井セキは上流から父養寺、山田、野市土、同下田村、物部、久枝、吉田の順となり山田セキは南国市香美郡土佐山田町、長岡郡大豊村の一部事務組合として組合議会を設き、組合役場によって管理運営される。

他のしセキは土地改良法にもとずく土地改良区によって維持されるという相違点がある。

セキはいずれも藩政時代またはそれ以前に建設されたとみられるものがあって完全でない。

このため水不足が生じ、立地相応の生産ができないところから昭和二十五年ごろ、合同セキ建設計画が国、県、地元民などによって持ち上がった。

その後同計画はいろいろ論議のマトになったが、ここ数年を振り返ってみると―南国市発足の母体ともなった「嶺南総合開発期成同盟会」によって強力に進められ県の構想は山田セキ上流約三百町の地点に、幅百町、高さ九町のセキを工費約六億円（国五、県三・五、残り受益者）で確保するというもの。

別に嶺南総合開発期成同盟会でも、位置を山田セキ上流約六百町、セキの高さ―約三町、工費―六十八億円（物価変動によって高くなったようだ）で施行する計画を立てたが、八セキの合同という点は同じであった。

これらの計画にたいし山田セキをのぞく他のセキは賛成であったが、山田セキ側に替不両論があり、とくにセキ当局の反対が強く、理由として①水量の確保に不安がある。②負担金に対する見通しがついていない。③用・排水施設の点が未解決という三点をあげ、これが七セキに合流しない〝キメテ〟となった。

こうして山田セキが踏み切れないため下流の六セキ（父養寺セキは山田セキ上流）が合同セキ建設を計画し、実現を強く県に迫まった。

同計画は工費四億五千万円（国費五、県費三・五、地元一・五）とし、野市土セキにあるため、必然的に同セキと運命を共にするわけ―は、六セキだけの合同セキ建設を計画し、実現を強く県に迫まった。

同計画は工費四億五千万円（国費五、県費三・五、地元一・五）とし、野市土セキ上流約二百町のところに三十八年度から着手、四十年度に完成するというものであった。

アルミより軽い鉄

さてあり強さも約三倍である。この強い鉄で物がどしどし作られるようになると。アルミで作った物は重くて持てぬなんてことになる。昔から世界的に名高い日本刀の鉄は普通鋼の約三倍の強さがある。日本は現在世界で三―四番に位するが品質的には鉄の製産国であるまだよう作らない鉄が多少ある。

スエーデンは質の良い鉄を作ることで有名である、作り方は日本刀と同じように砂鉄を木炭で溶かして作っている。かってのオリンピックでスエーデン選手の棒高飛びの棒が鉄製であるのには日本選手も驚いた、日本の竹よりも軽くて強かったからでした。スイス留学の農村青年がスイス製の大鎌を持って帰り日本で作ろうとしたがどうしてもできなかった。この大鎌は石に刃が当れば曲がるだけで刃こぼれせず、また、石でたたき直せばすぐ使える便利なもので、品質の良い鋼なればこそである。日本でもかつては日本刀を作った技術があっただけあって、最近ＩＮ鋼と名付けた優秀な鋼が発明され量産にうつされつつある。

鉄管（ロケット）

流域の市町村長ら あっせんに乗り出す

こうなってくると山田セキの母体ともいうべき南国、土佐山田、香美の市町村でも捨てておけず、市長村長同議長らがあっせんに乗り出した。

あっせん案は①八セキ合同の土改良地区をつくる。②土地改良区の発起人となる人数と人選はあっせん人に一任する。③土地改良区ができるまでの準備事務は、市の執行部が行なう―という点のようなものであった。

これを土地改良区設立世話人会は受け入れ、山田セキ側は同意しなかったため、あっせん者側は「組合議会で土地改良区をつくるかどうか決めてほしい」と要望。

その後―組合は協議を重ねて結論を出し、文書にして関係市長村長らで組織するあっせん機関の山田セキ井筋合同セキ推進委員会に回答した。

同文書の重要部分は次のとおり三点に分けられている。（原文のまま）

一、物部川大合同セキの構築並にこれが実現を前提としての山田セキ井筋の土地改良区設立の問題に関しては、長期間にわたりあらゆる角度より審議検討し、特に水量の確保、地元負担金の軽減並に諸施設の拡充のいわゆる三項目の効率的解決に最大の努力を傾注してきた。

二、然るに前記三条件の解決については関係方面と誠意を以て援渉を重ねて来たにもかかわらず何らの期待した成果が容れられず、しかも下請セキとの関係等四囲の状勢はじんぜん日を空しくすることを許さない実情に立至った。

三、ことに本組合は地方自治法による一部事務組合であるので、土地改良法に基く土地改良事業たる前記諸問題解決のために、この障規約に定めたる本然たる組合の姿に立返ることに決した。

―以上のように非常にわかりにくいものであるが、「組合はその規約によって組合本来の仕事をすることにし、土地改良区のことはノータッチである」ということである。

この組合意志は県当局に伝えられ、結局県は下流六セキの合同セキ建設に踏み切ることを決めた。

九月県議会で、調査費二十万円の計上が決まる。

なお山田セキ当局は「八セキ合同には、基本的には賛成である。」という点を始終強調している。（M）

農機具のこつ

刈すり機を使用するとき一番困るのは米に刈が混じることです。原因は種々ありますが主な理由は次のような点です。ゴムロールの調節不良または片ちび等のためはげる米が悪くて万石に刈がもく出る場合。万石の網の目が大き過ぎる場合。万石の傾きが悪い場合。万石の上網を流れる量が適当でないとき。万石の網が破れたり錆びていると。昇降機内部の仕切に孔があいている場合。この場合はなかなか見付けるに困難です。万石網の中の方向に障間ができている場合、これは機械が古くなるとでてきます、本片を打付けるか新間紙等をつめることです。刈上の点に注意すれば刈の出ることはまずなくなるでしょう。

市議戦は

10月31日

改選をなかえた市議会議員（定員30人）の選挙は、10月31日にはじめての大選挙区制で行なわれる。立候補は35、6人とみられ620票前後を目標に戦いはすすめられる見込み。なお投票は翌日開票。

立候補予定者（市会議員）に対する選挙運動などの説明会

10月10日頃開催

市選管では、市議選に立候補を予定されている人たちに対し、選挙運動などの周知説明会を10月10日（未定）に開らく。このため選管では、事務連絡などのため10月5日までに、立候補予定者の方々の連絡をのぞんでいる。

第一回からスケッチを入れる予定であつたが、なかなか筆がすすまなかつたが、本号からスケッチを始めることにした。

夢は時代とともに

人間が宇宙を飛びまわる時代、過去には夢に過ぎなかったことが現実となった。われわれの小さい頃（そういえばたいそう年寄りじみるが、まだ四十才を越したばかり）、その頃は国道や県道にしてもほんとに静かであった。ときをり馬車が終長に往来し、荷物輸送の主要な役割をしていた。

私しの家の西を県道が南北に走りちょっとした販道となっている。そこで本村や米などを満載した荷車が立往生することが度々あった。馬こそ迷惑なもので、重い荷物のほかに、屁をいやと言うほど叩かれていたこんなときはまく後押をしたことだった。

いまとはまったく雪泥の差である。市役所前の国道まったり、車の洪水だ、「キジキタ道車」の真似事でもするものならられてそま女ブツになりかねない。俗に言う「カミナリ族」なるものがものすごい爆音で疾走する。音速に超がつく頃なればあたりまえかも知らない

が、……なんと目まぐるしくなったものである。

書店をのぞいてみると、いろいろの書物がギッシリと飾られている。書物も洪水われわれ無能の士にはどれを選ぶかに苦しん、なかにはバカンス専門書も見受けられる。

デパートはデパートで商魂たくましく、食品バカンスなどなど、……陳列品は目のさめるものばかりである。ないないづくしのわれわれは、結局ため息をつくのが落ち、だが、暑いときの体の保養にはなるかも知れない。

月刊誌にこんな意味の記事があった。

M君は中学校をおえたが、農業が嫌いで、小さな町の店で働いていたが、一年足らずで人に使われることに耐えられず百姓をすることになった。それから八年、彼は何度も百姓からの脱出を考えたと言う、しかし、その度に店に努めたことを想い出して踏みとどまったという。そんなことで直面な百姓ではなかったが、機械の導入は人に先きがけてやった。当時は世おくれをする男とうわさされた。しかし、若者のいなくなったいま彼は部落の農業経営のリーダー的存在となり、生活面でもテレビーから、自生活まで非常に上くなり、都会にぐんぐん近づきつつある。こうして向上してゆけば将来農業の魅力は再認識されると、こう言った次第。確かに、科学の進歩はあらゆるものを過去に追いやったし、またそうなりつつある。

日本の経済もこの数年来目ざましい成長を遂げたと、数字が示している。私たちの身の廻りもひとところから見ると随分よくなった。それにしても一面生活苦のための一家心中、社会保障を切に訴える作家水上勉さんのあの池田総理大臣殿と、いう深刻な社会の底辺を聴くにつけ、なかしらうつろなものを感じる。

一人の力では解決できないもの、国の施策を必要とするもの、いろいろあろうがそれはそれとして、お互い大きな夢を持つこと、そして将来に向って努力していかなければならない。

夢を無くした人生にどんなものがあるだろうか、ここ私しもこんなことを胸にとどめこん後を努力していきたい。

次回のバトンは、産業経済課長の国沢氏にお渡ししします。

筆者のよこがお

二宮　博男（41）

（臨務課長）

大正11年3月、下末松の産内原野調練所から昭和34年満州に渡る。翌年現地人隊敗戦後ソ連のイルクーツクに抑留、25年長岡村書記、33年後免町総務係長、34年市財政課長補佐、36年出納室長、36年現職となる。

なかなかの金言居士であるが、すすめられれば人後におちない左（ひだり）のかくし芸がある。賭ごとはあまり好まないようだが、黒、白は下手ないやそうでなく横好きの方である。

家庭は、一妻光子（33）長男芳久（13）長女美和（10）両親の稲城（66）章（63）さん。

秋の訪れは あなたの装いから

毛糸編物展示、即売会

西部公民館の毛糸編物授産所は多年にわたって修得した技術を誇る秋ものの展示、即売会を開きます。

着やすさの魅力カーディガン、斬新な模様編の興様向きセンター、可愛い子供用品や手軽るにできる手芸品など、秋の陽の柔らかな色でまとめた展示会を是非ごらん下さい。

とき　10月 12日（午前10時から） 13日（午前中）

ところ　西部公民館

身体障害者の体育大会

十月三十日　高知市で

県身体障害者連盟（会員十万七千人）ではスポーツの振興によって心身を保養し、明朗快活で積極的な意志の持主として、更生の増進に資する趣旨のもとに県下の身体障害者の体育大会をつぎにより開催されることになっている。

市に在住する身体障害者はふるってこの大会に参加して下さい。

とき、十月三十日午前九時三十分

ところ、高知市営グランド

参加資格　障害者手帳を有する満十三才以上のもの。

参加申込、参加希望者は参加申込書（地区委員にあり）を地区の委員に提出すること。地区委員は九月末までに市福祉事務所へ提出する。

年金ポスト

国民年金をもらう資格

国民年金制度には、「拠出制年金」と、「無拠出制年金の福祉年金」のふたつがある。

拠出制年金をもらう資格は身体障害者や、母子家庭などになったとき、その前日までに納期の過ぎている過去、6年分の掛け金をしていることが最低の条件となっている。

また、老令年金は、通常20才から40才まで最低25年間掛け金をしているか、免除されていたとき支給される。

つぎに、福祉年金をもらうための資格は、国民年金の被保険者となった時から母子家庭になられたときまでの間が、掛け金した期間と免除を受けただけの人、つまり滞納が全然ない場合に支給される。

しかし、三年間以上も引続き掛け金の免除を受けている場合は、掛け金した人と同じように拠出制年金が支給される。

ただし、いま30才以上の人がもらっている老令年金は大正5年4月1日以前に生れた人だけがその対象となっている。

このように、国民年金は掛け金の滞納さえなければ、いつでもどれかの年金を受けれる資格があり、掛け金については、今後とも滞納しないように常に注意すべきである。

もらえる人はいませんか

あなたのご近所で次のような人はいませんか。

手足の自由がきかないなどの身体障害者夫になくなられた母子家庭

父か母、または両親に先立たれた小さな子供だけの世帯、あるいは親がなくなって姉が弟妹を、祖母が孫の世話をしている。

このような人で、まだ国民年金をもらってない人は、すぐ年金をもらうための手続きが必要である。

ただし、国民年金に加入して掛け金をしているか、掛け金の免除をうけている人以外はもらうことができない。

手帳をなくした方へ

なにかのことで、国民年金手帳をなくしたり、よごしてしまった人も多いと思われる。この様なときはできるだけ早く、市役所で国民年金手帳の再交付の手続きをとって下さい。

この場合、よごした国民年金手帳を皆っている方は、掛け金の納付記録などを照合するために必要であるから、その国民年金手帳を持参して下さい。

なお、国民年金手帳の再交付については、手数料はかからず印鑑だけで持参すればよい。

不服の申立て

国民年金の被保険者の資格や、年金などの給付、その他掛け金や、徴収金についての処分に不服がある人はいませんか。

これらの処分について不服がある方は、その処分（通知）のあった日から六十日以内に、県の社会保険審査官に、不服の申立てをすることができる。

これは、法律の適正かつ妥当な運用をはかるとともに違法または不当な処分によって、自己の権利または、利益を侵された人の権利をできるだけ簡単に、そして速やかに救うための制度である。

なお、不服の申立は、市町村役場を通じて行なうこともできる。

ハウス抑制キュウリの定植とその後の管理

十月の十日頃になると、台風も殆んど心配がなくなりハウス抑制キュウリの定植期となる。そこで定植とその後の管理について述べてみる。

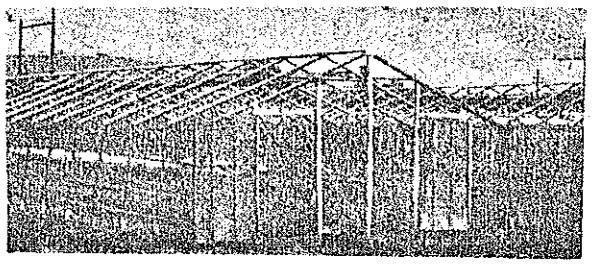
定植はおくれぬように。本葉五～六枚になると定植のの適期であり、これよりおくれると苗が徒長して傷みが多く、無滴透明のビニールを使った場合には茎に日焼けを起して初期の生育が悪く、しかも側枝数が少くなり収量も減収となるので播種後約三十日で本葉五～六枚の苗を定植する。

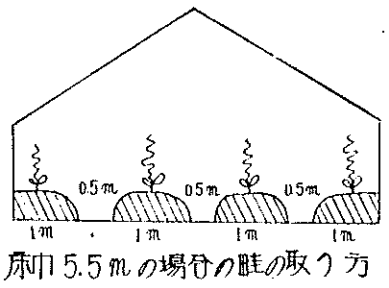
深植とせぬこと

苗は移植ゴテまたは鉢のままでハウスに運び定植するが、畦は植付位置を高くして水はけを良くし、苗は深植とならぬよう注意をしなければならない。深植にするとエキ病が心配である。

株間に十分光線を

定植時の株間は、ハウスの構造、畦の取り方等で異ってくるが、抑制栽培では生育が進むにしたがって日照時間は短くなり、温度も低下してゆく、しかも春型の品種を夏に播種してあるため、主枝えのめばなの着きが悪く、したがって側枝によって収穫をしなければならない、この時密植となっていると、下葉えの日当りが悪く、敷葉となって早くより枯葉が多くなり、着果や肥大がおもわしくない、故に株間を十分に取って弱く少い光線を高度に利用するため、二、三平方メートル当りの植付本数は六～七とするがよい。ハウスの構造と畦の取り方は次の通りである。

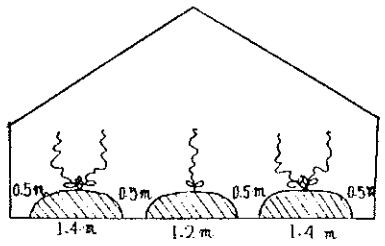




床巾5.5mの場合の畦の取り方

定植後の管理

定植が終ると十分に灌水して活着させ、活着後は灌水を控えめとして苗を充分に作り果実の肥大開始と同時に再び灌水量を増してゆかねばならない、初期より灌水量が多いと、キュウリの葉が果菜の葉程大きくなり結果が思わしくない、このように管理しても抑制キュウリは生育が早いので定植終了と同時に支柱や棚の準備を初めなければならない。



床巾6mの場合の畦の取り方

読書の秋です
勉強に健康に
充分気を付けよう

市の発展は先づ交通網の完備から

後免町も、スーパーが二軒となりやっと町に活気の色を染めてきた、しかし隣りの山田町、野市町の商店街の明るさや、発展性に比べ後免町はまだ昔の姿からぬけきらず、何か新鮮さを欠ぐものがある。

これも後免が、距離的に高知市の近くにあること、さらに東西に走る乗り物の便利さに比べ、後免町を中心にして、南北に走る限られたバス、それに市を循環する整備された道路のないことなどが、市の発展を妨げている原因ではなかろうかそのため、買物や、病院通いにも、旧長岡の東部北部は山田町へ、岡豊、福生、十市は高知市へと出かけることが常識となっている。

今土電バスが後免町を中心として運行している。一日の台数は、

高知市―野市間　四五本
高知―山田間　十七本
高知―前浜間　八本
高知―領石間　五本
後免―久枝間（立田経由）　六本
後免―高知間（介良経由）　九本
後免―浜改田間　六本
後免―十市間　五本

となっており、東西に走るバスの回数は、南北の四倍強である、勿論台数が人数に比例して多いことは当然ではあるが、接続や連絡時間も考慮されねばならぬ。現在福生から後免間は、里改田でのりかえ、まの悪い時は一時間以上も待たされる。これでは後免まで買物にきたくても、バス賃の高いのをがまんしてまで、高知へ行くようになるのも、無理からぬことと思われる。南北のバス利用者が少く回数増加による経営赤字の場合は、将来の発展を期して、市当局がその負担を負うだけの度量がほしい。

交通網の整備とともに、市は勿論、町の有力者、商工会の人たちに考えてもらいたいことは、いかにすれば後免町に、よりをくの人が集まってくるかということ。それには特徴ある何物かを創りだすということである。

お客があるから店を大きくし、設備をよくするのではなく、お客が自然に足を運んでくる上うな雰囲気にもってゆくことが大切ではなかろうか、例えば市にある二大農機会社を見学にくる数多い県外人の始んどが、高知市に宿泊していく、せめて市内に、百人位ゆっくり泊まれる旅館や、三百人位が会合できる会館を建ててほしいものである。また最近大津村が、農作第一主義より、田園農工団地に切りかえつつあることは、誠に当を得た処置と思われる。南国市発足当時、最初になされる管であった都市計画が今まで放置され、やっと来年からその実現の第一歩をふむとのことであるが、どうか竜頭蛇尾に終らないようにしてもらいたい併わせて大雨のたびにあふれる川の修理や、道路の拡張も願いたい。都市計画は限られた人たちによって定られるべきものではなく、広く市民全体より、アイデアを取り入れることが望ましい。都市計画成立の暁には、市を循環する市営バスを走らせ。南北協力一致の市に発展させてもらいたいものである。（高一）

これはびっくり　千円でクーラー

簡易装置

高知大学農学部＝日章＝のガレージに＝簡易ルームクーラー＝がお目見得、学部に涼しい話題をまいている。

考案したのは同学部運転手・溝淵虎捷（ながかず）さん（四〇）＝甘枝＝機械は廃品になった自動車のラジエーター、家庭用扇風機、ホースの（二本）の三つ。ラジエーターのうしろに扇風機を密着させ、ホースは一本をラジエーターの給水口と水道のコックにつなぎ口から放水場所まで引いて置く。

コックをひねって通水し、扇風機のスイッチを入れるとラジエーターを流れる水が扇風で冷え室温に作用し室全体が涼しくなる仕組み。

溝淵さんの経験だと広さ十畳敷ていどの室温なら二十度を越すことはあるまいといわれ、このころの外気より十度以上も低いわけ。この装置の特色は①移動が自由②しろうとでも簡単に仕組める。③材料費が安く長さは機械とコックの位置。それに放水場所によって一定しないが、両方合わせても千円あれば仕上がる見込み。＝写真は簡易ルームクーラーと溝淵さん＝

生活設計は簡易保険で

郵便のはなし

みなさんには、それぞれ生活設計を計画され、その実行に努めておられることと思います。

人生には、子弟の教育、病気、死亡、災害、貸借などいろいろなことがあります。また年老いて働らけなくなる日も、やってきます。そこで私たちは平常の収入から生命保険、預貯金、証券投資などで災害や老後の生活などにそなえて準備することを考えます。このうち最近では郵便局の簡易保険を利用する方がたいへん多くなりました。

郵政省では丸二月から十一月まで全国の郵便局を通じて「生活設計簡易保険新加入運動」を行なっています。今年は、昭和二十三年から二十八年ごろに加入された簡易保険が、たくさんめでたく満期になっております。

これはせっかく生活向上のために加入されたのですから、受け取られた保険金は無駄使いしないで計画的に有効に使うようにしたいものです。

簡易保険は現在五百万まで加入できますから、今後の生活設計のため、引続き加入されるよう、全国の郵便局を通じておすすめしております。

満期保険金は、満期のとき関係書類をそろえて、受持郵便局へ請求すれば配当金とともに、すぐお支払いいたします。

関係書類としては、保険証書、保険募集帖のほか、保険金が五万円を越えるものには、被保険者の戸籍抄本または住民票の抄本がいりますから、前もってそろえておいてください。もし保険証書が紛失などしているときは、保険金の支払いが少しおくれますから、前もって郵便局へ申し出て再発行の請求をしてください。

再発行は無料です。その他わからないことは郵便局の窓口かまたは集金員におきいください。

右側はあなたのゆく道かえる道

小児科雑感

1、子供の病気は昔とずいぶん変り、ビールス感染によるものがふえてきました。また最近は癌や高血圧などに関心がもたれてきました。これからは病気になってから、どうこうというのでなく病気にかからないように予防する方面に力を注がれねばなりません。健康で優秀な子を得るには、生まれてからでは遅く母体内にあるときから栄養や衛生に注意せねばなりません。更には結婚してからでは遅く、結婚する前に理で学上からみて差障りのないように、配偶者を選ぶという点までいかねばなりません。

2、赤ちゃんコンクールが盛んになり、子供の体の発育が良くなった反面、しつけの面はおろそかになったように見受けられます。外国の家庭では幼少のときに厳しいしつけを行い、成人してからは自由にするという方針です。それがわが国では幼少のときは自由に甘やかしておき、成人してから指図ててやかましく叱言をいいます。ありがた迷惑なのは子供です。しつけというのは婚姻中の胎児を通じて小児期に完成すべきもので、ことに三、四才までが一番大切です。よく学校でのしつけが悪いといいますが、しつけというものは家庭で行うものでして、そのためには親の生活態度が重大です。診察室へ入ってきても帽子を取らない子供、甚だしいのは付添ってきた父親がポケットへ手を入れたままで医師の前へ突立つという風景もみられます。

3、産児調節により家庭の子供が少くなったため、育児が十分に行なわれることは望ましいが、反って栄養が強すぎるための障害がいろいろふえてきました。その中で多いのが食欲不振です。これは小児ノイローゼの一つであり、親が手をかけすぎるために起るものです。子供は赤ん坊のときから自立の精神を養えるように育てるべきであり、親はそれを見守り手綱を調節するだけでよいものです。難産が生れたわが子を谷底へ親落すという例えのとおり、育児にも毅然としたものがあって欲しいものです。

高知市郵便小児科　木下保一

二学期の開始とともに

二学期が始まると、家庭では子どもが通学するようになり、家の中が静かになったというわけで、気をゆるめがちなものである。

ところが、この学期始めの九月は、夏休みの惰性から抜けきれず、規則正しい生活を正しい方向に導くために、かなりの努力と指導が必要となり、不良化を防ぐにも大切な時期である。また炎暑による疲労が残っていて、からだの上にもいろいろの影響が表われるので、この点についても家庭では充分に配慮にすることが必要である。そのため留意点は、次のとおりである。

‖子どもを観察する

ことばづかい、服装の変化、持ち物の様子、小遣いの使い方、交友関係などの生活態度や健康状態、それに学習態度などをよく観察することが大切である。このことは、ふだんでも大事なことであるが、こと学期始めのような生活の転機には、いろいろと変化することが多い。その変化を見のがさないで、問題の早期発見に役立てるとともに、子どもを充分に知るきっかけにしたいものである。

‖規則的な生活になれさせる

夏休みの惰性を除いて、規則的な生活に早くなれるようにすることは、指導の根本である。これまでは家庭を中心とした生活であったが、規律ある集団の生活に転換するのであって、この切り換えをじょうずにしかも早く軌道に乗せることは二学期を充実させるかどうかのカギになる。

また、長期休暇のあとの生活態度には、休みによって得られた傾向で、さらに伸ばしていきたいと思われるものもなくはないし、反対にいち早く取り除きたいものもあるから、難多であろう生活を早く軌道に乗せるとともに、これらの変化と傾向を見つめながら、その後の指導に配慮すべきである。

‖健康の増進を図る

夏から冬にかけては、一番長い学期で、また変化に富むときである。そしてその始まりの九月は季節の変わり目でもある。夏の疲労から回復するように努め、伝染病や食中毒などにかからないように努め、伝染病や食中毒などにかからないよう衛生に注意しなければならない時期である。

そして、運動にまた読書に最適のみのりの秋に備えるべきである。より収穫多く過ごせるかどうかは、健康にかかっているからであるから、個人差や年令に応じて充分に健康の増進に努めるように図るべきである。

そのもうすぐ

値上げにびっくり

投稿　毎月二十日
（八百字以内）
宛先　広報委員会

先月のこの紙面で、保健薬にかんする青木さんの説明を読んだ。

そして現在〝適正〟な割り引きで〝適正価格〟で販売されていることがわかったが……

わたしには、他の薬品の価格につき希望がある。

ことしのこと一市内でみずむしの薬剤を買った。昨年三百円だったからいくらか値上がりになっていると予想していたが、なんと五十円も高く、三百五十円になっており、アッケに取られるとともに唖然としないものを昔ち続けた。それから約一カ月後、別の薬局で同種のものを買ってみると、昨年と同じ三百円。

ところ変われば一ということわざがあるが、市内であって後発地区という狭い土地だから、どの薬局もあまり聞きのない価格で売れないだろうか。

薬局も〝企業〟であってみれば、それぞれ経営のしかた、いいかえれば価格に相違のあることが当然ではあろう。

しかし、この種の薬剤で三百円が三百五十円と飛躍した価格になることは、当然得たものでないように思う。（中町・みたに）

沢本氏の「教育雑感」を読んで

後兎町中ノ丁　中田一元

過日発行された、第四三号広報南国にのせられていた沢本氏の「教育雑感」が、その後いろいろな反響を呼んでいることを聞き、どうしてもこの一文をのせる必要を感じ投稿した。

教育雑感を読んで、氏の現在の教育に対するかなりな理解と、現場教師の苦労にたいする良い意味での同情そしてこれらの底を一貫して流れる善意をくみとる事ができたが、それでいて、一部の悪意にみちた反動者の、民主教育と、教師に対する攻撃の材料として、利用されやすい弱点―現在の学校教育に対する一面的な評価と、教育労働者としての教師に対する理解の不足―のあることを、指摘しない訳にはいかない。この点について少し補足をしたいと思う。

まず現在の、学校教育の実態を、いくつかの事例によって、紹介したい。

○南国市における、六年担任のY教諭は、私立学校への進学者を中心に、読、書、算に授業の重点をしぼってしまい、体育、情操教育などの授業などは大巾にカットされ、三学期ともなれば進学しない子は、自習、自習で全くかえりみられない状態である。しかも彼は、私塾を開き、毎月相当の収入をあげているとか、これがいわゆる「眼前の子供の教育に熱心である」ということの、実態である。南国市から私立中学校へ進学する子供は卒業生全体の一割と聞く。この一割のために、のこりの九割の子供達が犠牲にされてもいいというのだろうか。果して、このようなことが、公教育（義務教育）の場で許されていいものだろうか。

○吾川郡下のある学校の廊下のはり出し、「友だちは、すべて敵と思え。心から憎めないような生やさしい斗志では、この世の中のきびしい競争から脱落する」―

なんと恐ろしいことだろう。こんなはげましの一方で教師は、さわぐ子供を大声で叱り、廊下へ立たせ、職員室へすわらせ、教師の圧力で子供たちを一途にテストに追いやっている。

○病気見舞の意味

ある学校でのこと、病気見舞にやってきた友達が、かえったあとで、入院中のその女の子は「あの人たちは私の様子をさぐりにきたのよ。本当は私の病気がうんと重くなって死んでしまえば良いと心の中では思っているのよ」と泣いてしまった。つきそいの母親は、これをみて、ちがった涙をながした。

○高知市のある中学二年生の作文

ぼくは、いまどこかへにげてゆきたい気がしてならない。入学試験が全てみたいな、中学生活からにげだしたい。みんな塾へ通い、家庭教師をやとい、少しでも勉強の点を上げようとしている。試験が人間の上下を区別してしまい、試験が、人生のすべてを決定してしまうこの世の中に、みんなは何故怒りを感じないだろう。もう、この制度は変わりはしないだろうと、あきらめて、点取り虫になってしまっているのだろうか。ぼくだってそうなのだ。だけど、これが正しいことなんだろうか。こんなことを人生の目標に置きかえてしまって良いのだろうか（未完）

本文の掲載により他に及ぼす影響を心配しましたが、筆者の強き要望により敢えてのせました。

ブラジル 実態調査と名前

見聞記

「婆さん息子さんの生年月日は？」「息子がもうまあ戻るきに息子にきいとうぜゃ」「こりゃー待つ間に隣の家を劍ってまた来ますきに」……そして三度よったがいまだ息子戻らず四回目でようやく当のご本人に逢えた。やれやれ「おんちゃんの生年月日は--いつぜよ」「サア明治何年じゃっつろー、米の配給通帳みたらわかるが、どこえやっつろー」それが夜10時頃。翌日五度目にようやく了解了解。これはさる8月22日より4日間にわたって行なわれた住民登録実態調査の一幕。

私も一調査員として70世帯程劍り、ビックリしたのは名前、亀治、ヨシオ、留吉、虎熊など男にかわらん……が女の人また鬼子姐などと変った名前もあった―コレ後兎篇で、次はブラジル篇を。

⊙一昨年の9月頃と記憶する私がブラジルにいた時の夕方、ジイプでブラジル政府側の国勢を調査する役人と市役所側から住民の実態を調査する役人2人が来た。私が役人両人にミムイト・プラゼール・エン・コニャセーロシャモメ・ヒロシイト・ー（初めまして洋田様ですどうぞよろしく）といった。するとシロシトは日本の天皇でわありませんか？ビックリしたブラジル人にはヒの発音をシに聞こえるらしい私の発音ヒロシイトーでシロシトに聞えたのだ。たちまち私は日本の天皇だ！ブラジル人からすぐ親しまれたまた骨顔美の裕仁ともいわれた。そこで私は「天皇はコンナまぬけで皆せではない、立派な紳士だ！」といってやった。そんなことでブラジル人が私の名前をすぐ覚えてしまった。その晩役人がとまっていったので夜遅くまでユーモアナ話を聞く機会ができた。

―その一話―

⊙知人に上里国平君がいた彼はブラジル人からダンベイドイとからかい笑われた。ブラジル語でキンタマが縮いーになる。また親父さんの名前が文作でっ彼の発音が悪かったか、わざと聞き違えたのかブンダサック・ドイと呼ばれ穴の袋が縮いーでブラジル人は大笑い。

⊙また勝田ふでさん一直訳するとコリャまたなんと！性交は品を選べーになる。これ程になると在伯中は名前をかえねば、いささか都合が悪い。

また秋田真智子さんも猿を役せになり……このように、ブラジルでは、やたらに日本語も考えてしゃべらねば、トンチンカンな意味にとられドエライメになった話もかずかずある。

このように実態調査によりいろいろな出来ごとにあい住民各人の生活のありさまを知り少しでも社会学や人生観にプラスとなった。

伊藤允一

「何かを学ぼう」

満人かたぎ

私の友人はしばらく満州に住んだことがある。その話によると、雪溶けのぬかるみの道を満人が馬車で荷物を運んでいた、とうとうぬかるみに車輪がめりこみにっちもさっちもゆかなくなった。当の満人は荷物の上にごろりと横になりうつらうつらやりだした。翌日見るとやはり馬車も満人ももとのままでいる、あわてる様子はさらさらない。次の日になってやっと馬車が動きだした。ぬかるみが固くなったためである。一望千里部落はるか遠くにかすんで人の助けが得られないにせよ、二日でも三日でも道がかわくまであわてずゆうせんと待つ気持は大したものだ。日本人であったらどうしただろう。

今月の税金

9月は三十八年度県・市民税第2期分の納期（9月1日―30日）です。

市では納税者の便宜を計るため市金庫（農協）以外の次の場所で出張徴収を致しますので期限内納税に、ご協力下さい。

地区	月日	時間	場所
大篠	9月27日	前9時―後4時	竹中公民館
稲生	〃	前9時―正午	立石公民館
〃	〃	後1時―後4時	西谷消防車所
十市	〃	前9時―正午	阿戸公民館
〃	〃	後1時―後4時	大小浜公民館
久礼田	〃	前9時―正午	植田公民館
〃	〃	後1時―後3時	領石支所
伊達野	9月30日	前9時―正午	住吉野公民館
住吉野	〃	前9時―正午	明見公民館
大篠	〃		

糖尿病及び腎臓病

正澤本幸

今月は腎臓病について、書いて行こう。腎臓病は昔から人体の一番大事な道具の一つにかぞえられている。腎臓の働きは、体の中で一仕事してできた食べものの、カスの棄て場所である。ご存知のように私達人体は一種の熱機関であり、トラクターのエンジンとその原理は大体似ている。複雑でありそれに心という別の要素の入っている熱機関である。そして、発熱してエネルギーを生じて作動するやり方はトラクターエンジンと別に変った所はない。排気ガスが出て行く所が私達の小便である。南国市の人はしょうもない。糸球体という血管の沢山入りこんだ所とそれを腎臓にまで連絡する細尿管というものが腎臓の作業する大事な所である。腎臓に集った尿は輸尿管を通って膀胱に集る。糖尿病は球体という所がまあミソコシのようなものであり、ミソコシと腎臓を結んでいる小さいパイプが細尿管である。

このミソコシは私達の使うミソコシの通を行く。ミソコシは、ミソのカスを残して必要なものをコシ出すが糸球体ミソコシは不必要なものの出して、必要なものを止めておく。ただし、ことわっておくが、不必要なものの出すと一緒に必要なものを出すというまあ粗雑な仕事をする。そして、細尿管を通して、必要なものを再吸収する。こういった仕事をする場所が何らかの原因で充分仕事をしなくなったのが腎臓病である。従って腎臓の犯された場所や犯人によって、病気は異てくるし、また、その処置も違ってくる。順を追て病名をかかげながら話を進めよう。

①急性糸球体腎炎　原因は大部が連鎖球菌だから、これに対する薬剤を早期に充分使用すると慢性に移行することを防ぐことができる。腎炎自体については、特殊治療はない。安静保温などが大切であり、初期一週間が大体治るか慢性に移行するかの決定をする大事な時期でもあるので、通院加療は禁物である。食餌療法は専門に渉る故に省略するが、何れにしても初期において、充分安静を守て加療するということが何よりも大事なことである。

②亜急性腎炎　これは悪質ではあるが少いもので、急性腎炎のように急発する。そして急性腎炎のように何週かすると下火になるということがなく、高血圧蛋白尿血尿浮腫がすすみ遂には死亡するものである。私はこの十何年かの間にこんなのに面会したことがない。

③慢性腎炎　これは急性腎炎のやりそこないが慢性になったものや最初からぼんやりと慢性になってまたものとある。腎硬化症といって高血圧を合併したものなどは大体不治である。だから腎炎は初期において充分安静を守て治療を計るということが一番大事である。